AIらしい画像・動画から「自分らしい作品」へ

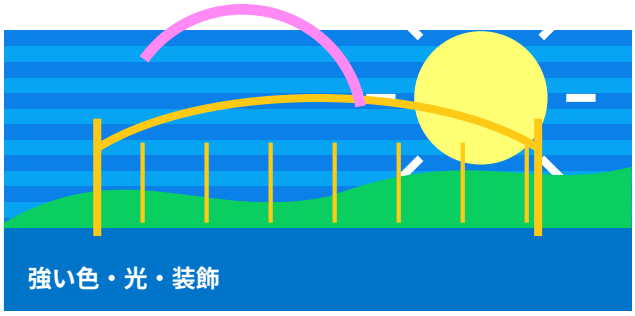
見る・気づく・直す。生成AIの作品をより良くするための学習プリント

今日の目標 ① AIらしさの特徴を見つける ② なぜ気になるのか説明する ③ AIへの指示を変えて改善する

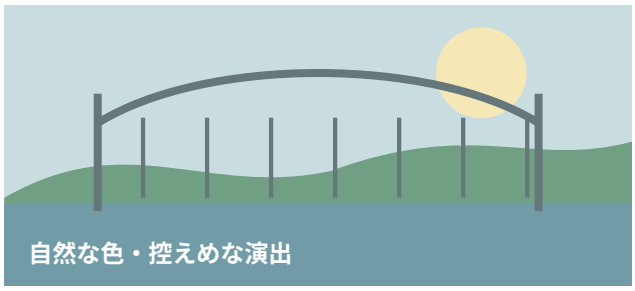
1｜「AIらしさ」とは？

この教材でいう「AIらしさ」とは、強すぎる色や光、不自然な形や動き、どこかで見たような表現などが目立ち、作り手が本当に伝えたいことが見えにくくなる状態です。
AIを使うこと自体が悪いわけではありません。派手な映像が目的に合う場合もあります。

2｜同じ環水公園でも、表現で印象が変わる



A：演出が強すぎる例



B：落ち着いた表現の例

※上の図は比較のための模式図です。実際の環水公園の写真やAI生成映像ではありません。

3｜AIらしく見えやすい5つの特徴

① 色・光	鮮やかすぎる色、強い逆光、必要以上のキラキラ
② 形・動き	手や顔、建物の形が変わる／人や物が不自然に動く
③ カメラ演出	意味のないズーム、回転、速すぎる移動
④ 似た表現	どれも同じような構図、表情、映画風の雰囲気
⑤ 伝わりにくさ	映像はきれいでも「富山の何を推したいか」が不明

AIの映像を、自分で改善しよう

4｜改善のコツは「何を、どう見せたいか」を決めること

① 目的を決める 例：「環水公園の静かな夕方を紹介したい」

② 主役を1つに絞る 例：橋と水面を中心に。余計な装飾は増やさない

③ 表現を具体的に指示する 例：自然な色、柔らかい光、ゆっくりした移動

④ 実物と見比べる 例：橋の形や周囲の風景が正しいか確認する

⑤ 気になる部分を直す 例：速いズームをなくす／光を弱くする

5｜AIへの指示文を比べよう

改善前（あいまい）
「富山の環水公園の、すごく美しくて感動的な動画を作って」

改善後（具体的）
「富岩運河環水公園の橋と水面を主役にした15秒動画。落ち着いた昼下がりの自然光、実際の景色に近い色、固定に近いゆっくりしたカメラ。過剰な光やズームは使わない。実物と異なる建物を加えない」

6｜自分の作品をチェックしよう

動画・画像を見ながら、当てはまるものに □ を付けましょう。

□ 色や光が強すぎない

□ 人物・建物・物の形が不自然でない

□ カメラの動きに意味がある

□ 本物の富山らしさが伝わる

□ 一番伝えたいものが分かる

7｜書いてみよう

私が紹介したい富山の魅力：_____

気になったところ：_____

次にAIへ伝えたい指示：_____

まとめ AIが作った画像や映像を、そのまま完成品にしない。「見る → 気づく → 考える → 直す」 を繰り返して、自分が伝えたい「とやまの推し」を表現しよう。